過活動膀胱に対する猪苓湯の効果

－Overactive bladder questionnaire Short Form: OAB-q SFによる評価－

神戸百年記念病院 和漢診療科 医長（兵庫県）　**堀江 延和**

尿路不定愁訴に対する猪苓湯の有効性についてはこれまで報告があるが、過活動膀胱に特異的なスコアを用いた報告はない。そこで今回、過活動膀胱症状質問票（Overactive Bladder Symptom Score：OABSS）およびQOL質問票であるOveractive bladder questionnaire（OAB-q）を用いて猪苓湯の効果を検討した。

Keywords　過活動膀胱、猪苓湯、OABSS、OAB-q SF

はじめに

過活動膀胱（Overactive bladder：OAB）は、排尿筋の不随意収縮を示唆する症状としての尿意切迫感を必須症状として、通常頻尿や夜間頻尿を、またときに切迫性尿失禁を伴う症状症候群である。罹病率は40歳以上の人口の12%（約800万人）と推定される[1]。

猪苓湯は主に泌尿器系疾患や泌尿器に関連した愁訴を持つ場合に用いられ、膀胱炎などの尿路感染症や尿路結石などの疾患に応用される。当科ではOAB患者に、猪苓湯を使用している。

そこで今回、猪苓湯のOABに対する改善効果を検討するために、OABの重症度評価ツールであるOABSSおよびQOLの評価ツールであるOAB-qによる調査を行い、症状改善効果を確認できた4例について報告する。

過活動膀胱症状質問票（OABSS）（表1）

OABSSは、過活動膀胱診療ガイドライン（以下、OAB診療ガイドライン）で下部尿路症状を評価し、重症度の決定や治療効果を判定するツールとして提唱されている。昼間頻尿、夜間頻尿、尿意切迫感、切迫性尿失禁を問う4つの質問から成り立っている。OAB診療ガイドラインでは、尿意切迫感スコアが2点以上、かつOABSS合計点が3点以上をOAB診断基準としており、5点以下を軽症、6～11点を中等症、12点以上を重症としている[2, 3]。

Overactive bladder questionnaire（OAB-q）

現在、世界標準のOAB特異的QOL質問表として広く使用されており、日本語通常版および短縮版（OAB-q Short Form：OAB-q SF）の信頼性と妥当性が確認されている[4-6]。

表1　過活動膀胱症状質問票（OABSS）

以下の症状がどれくらいの頻度でありましたか。
この1週間のあなたの状態にもっとも近いものをひとつだけ選んで、点数の数字を○で囲んでください。

質問	症状	頻度	点数
1	朝起きたときから夜寝るときまでに、何回くらい尿をしましたか	7回以下	0
		8～14回	1
		15回以上	2
2	夜寝てから朝起きるまでに、何回くらい尿をするために起きましたか	0回	0
		1回	1
		2回	2
		3回以上	3
3	急に尿がしたくなり、我慢が難しいことがありましたか	なし	0
		週に1回より少ない	1
		週に1回以上	2
		1日1回くらい	3
		1日2～4回	4
		1日5回以上	5
4	急に尿がしたくなり、我慢できずに尿をもらすことがありましたか	なし	0
		週に1回より少ない	1
		週に1回以上	2
		1日1回くらい	3
		1日2～4回	4
		1日5回以上	5

今回は患者負担を考慮し質問項目の少ないOAB-q SFを使用した。OAB-q SFは「患者の困った程度（困った程度）」を測定する6項目および「患者のQOLが症状によって影響を受けている程度（QOL総スコア）」を測定する13項目で構成される（**表2：次のページ参照**）。各項目は6段階で評価された後、0～100点に換算される。「困った程度」はスコアが低くなると困る頻度が低下し、「QOL総スコア」はスコアが高くなるとQOLが良好であることを示す。

対象と方法

頻尿を主訴に当科受診し、OABと診断された患者に対して、猪苓湯6.0g/日を投与した。評価は、OABSSおよびOAB-q SFを用いて原則投与前および投与4週後に行った。

患者満足度については、投与4週後に患者自身の満足度を質問し、「大変満足」、「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「不満」の5段階で回答してもらい調査した。

猪苓湯以外の漢方薬および過活動膀胱に効果を示すと考えられる薬剤(抗コリン薬等)は併用しなかった。

結　果

OABSSの結果を**図1**に示した。全例において、昼間頻尿、夜間頻尿、尿意切迫感、切迫性尿失禁のいずれか、およびOABSS合計点が低下した。

OAB-q SFの結果を**図2**に示した。全例で「困った程度」のスコアおよび「QOL総スコア」の改善が認められた。

患者満足度は大変満足が1名、満足が3名であった。「まあまあ満足」、「どちらともいえない」、「不満」と回答した患者はいなかった。副作用は認められなかった。

症例提示

症例1

【患　者】 64歳男性

【既往歴】 なし

【合併症】 高血圧・脂質異常症

【現病歴】 頻尿を主訴にX年3月当科受診。

【治　療】 初診時のOABSS合計点は9で、中等症と診断された。猪苓湯6.0g/日投与したところ、4週後にはOABSS合計点は4と減少し、全ての項目で減少を認めた。OAB-q SFにおける「困った程度」は43.3から6.7、「QOL総スコア」は67.7から95.4とQOLの改善が特に顕著であった。初診時、OAB-q SFにおいて「前触れもなく急に尿がしたくなる」、「尿がしたくて不快である」といった症状項目について「かなり困った」と回答していたが、投与4週後にはこれらの症状は「まったく困らなかった」へと改善した。また、初診時は「夜ぐっすり眠れない」、「夜中に目覚める」といった症状が時々あったが、4週後には消失した。

症例4

【患　者】 49歳女性

【既往歴・合併症】 なし

【現病歴】 頻尿を主訴にX年3月当科受診。

【治　療】 初診時のOABSS合計点は9で、中等症と診断された。猪苓湯6.0g/日投与したところ、4週後にはOABSS合計点は5へ減少し、切迫性尿失禁スコアが3から0へ著明改善を認めた。OAB-q SFにおける「困った程度」では90.0から26.7と改善が認められた。特に「困った程度」における、「思わず少しの尿がもれる」や「我慢できなくて尿がもれる」といった症状項目では、「非常に困った」から「ほんの少し困った」へと症状の改善が認められた。

表2　Overactive bladder questionnaire(OAB-q)SF

1.「患者の困った程度(困った程度)」を測定する質問群

【質問事項】
この4週間に以下の膀胱の症状で、あなたがどの程度困っていたかをお考えください。
それぞれの症状で、あなたが困った程度にもっとも当てはまる選択肢をお答えください。
回答には正しい答えあるいは間違った答えといったものはありません。
すべての質問にお答えください。

問	設　問
1	尿がしたくて不快であること
2	前触れもなく急に尿がしたくなること
3	思わず少しの尿がもれること
4	夜寝ている間に起きて尿をすること
5	夜寝ている間に尿がしたくて目が覚めること
6	我慢できなくて尿がもれること

回答選択肢	
まったく困らなかった	1
ほんの少し困った	2
多少困った	3
かなり困った	4
とても困った	5
非常に困った	6

2.「患者のQOLが症状によって影響を受けている程度(QOL総スコア)」を測定する質問群

【質問事項】
この4週間のあなたの膀胱の症状全般を思い出して、生活にどのように影響したかをお考えください。
どれくらいの頻度でそのように感じたかをよく考え、それぞれの質問にもっとも当てはまる選択肢をお答えください。

問	設　問
7	公共の場で、トイレに行きやすい場所にいるように心がけた
8	どこか身体の具合が悪いのではないかと思った
9	夜ぐっすり眠れなかった
10	身体を動かしてすること(スポーツなど)が減った
11	近くにトイレがないような活動(散歩、ジョギング、ハイキングなど)を避けた
12	トイレに行く回数が多くてイライラした
13	寝ている間に尿意で目覚めた
14	他の人と外出中に、トイレに立ち寄る必要があるため、申し訳ない思いをした
15	家族や友人との関係に影響があった
16	はずかしい思いをした
17	必要な睡眠時間がとれなかった
18	パートナーや伴侶との間に問題が起こった
19	初めて行った場所では、到着してすぐに、一番近いトイレの場所を確認した

回答選択肢	
まったくなかった	1
まれにあった	2
ときどきあった	3
しばしばあった	4
ほとんどいつもあった	5
いつもあった	6

考　察

OABは比較的新しい疾患概念であり、その漢方治療につ

図1　投与前および4週後におけるOABSSの各スコア

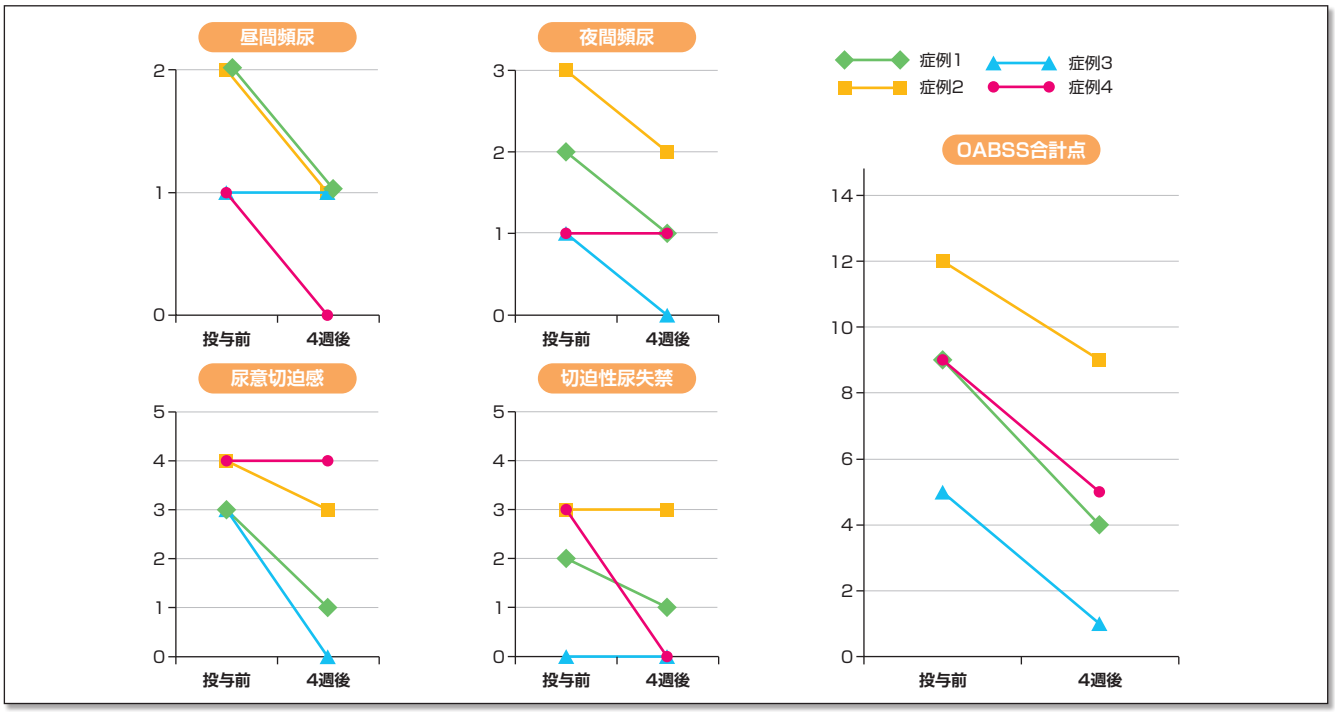
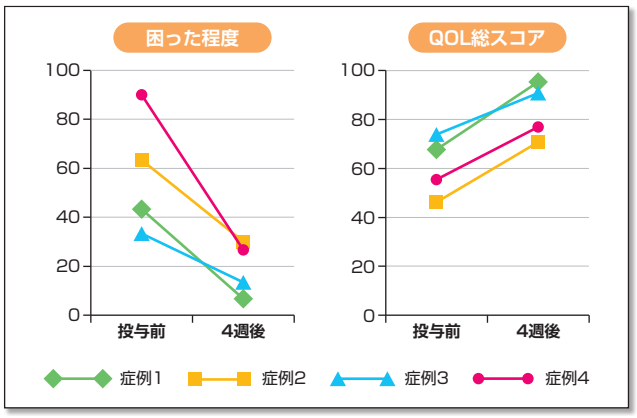


図2　投与前および4週後におけるOAB-q SFの各スコア



いては未だ十分に検討されていないが、尿路不定愁訴、頻尿に対しては、八味地黄丸、牛車腎気丸、猪苓湯といった漢方薬が使用される。

猪苓湯は利水作用を持つ猪苓、茯苓、沢瀉、滑石および滋陰補血の作用を持つ阿膠で構成されている。利水作用と滋潤作用を併せ持つ処方で、水分代謝および排尿を是正し、尿路系の炎症を鎮静化する。過去の報告からも、猪苓湯は頻尿に対する有効性が高い。堀井らは、種々の尿路不定愁訴を訴える30例に対して猪苓湯を投与し、特に頻尿について92.9%の改善と他の項目より際立って効果が認められたとしている[7]。その他にも、菅谷らは中等度改善以上69%、布施らは有効率88.9%と、それぞれ猪苓湯の高い有効性を報告している[8, 9]。

OAB治療の第一選択はムスカリン受容体拮抗薬であるが、禁忌となる合併症の存在や併用薬、あるいは副作用により使用しづらいことも少なくない。一方、猪苓湯は重大な副作用や禁忌となる合併症などがない。また、猪苓湯の「証」と有効性には相関がなかったとの報告もあり[9]、猪苓湯はOABに対して「証」を考慮しなくとも使用しやすい。したがって、既存の西洋薬が使いづらい場合にも、猪苓湯はOAB患者に対して投与を考慮できる薬剤の1つであるといえる。

今回「証」に関係なく猪苓湯を投与し、有効であったOAB患者4例を紹介した。OABはQOLが著しく低下することが知られている疾患であるが、これまでOAB-qを用いて漢方薬の効果を検討した報告は未だない。今回OAB-qによって猪苓湯のQOL改善効果を確認できたことは非常に意義深く、今後はさらに症例を重ねて報告したい。

〔参考文献〕

1) 本間之夫 ほか: 排尿に関する疫学的研究. 日排尿会誌 14 (2) : 266-277, 2003
2) Yukio H, et al.: Symptom Assessment Tool For Overactive Bladder Syndrome-Overactive Bladder Symptom Score. Urology 68 (2) : 318-323, 2006
3) 日本排尿機能学会 過活動膀胱診療ガイドライン作成委員会 編: 過活動膀胱診療ガイドライン, Blackwell Publishing, 2005
4) Coyne K, et al.: Psychometric validation of an overactive bladder symptom and health-related quality of life questionnaire: the OAB-q, Qual Life Res, 11 (6) : 563-574, 2002
5) 本間之夫 ほか: Overactive bladder questionnaire (QAB-q) の日本語版の作成と言語的妥当性の検討.日排尿会誌17 (2) : 241-249, 2006
6) 本間之夫 ほか: Overactive bladder questionnaire (QAB-q) の日本語版の計量心理学的検討. 日排尿会誌 17 (2) : 250-256, 2006
7) 堀井明範 ほか: 尿路不定愁訴に対する猪苓湯、猪苓湯合四物湯の効果 泌尿器科紀要 34: 2237-2241, 1988.
8) 菅谷公男 ほか: 尿道症候群に対するツムラ猪苓湯とツムラ猪苓湯合四物湯の効果, 泌尿器科紀要 38 (6) : 731-735, 1992
9) 布施秀樹 ほか: 尿路不定愁訴に対する猪苓湯および八味地黄丸の効果, 泌尿器外科, 8 (7) : 603～609, 1995